

Y03a 関西の複数大学で行う「女子中高生のための関西科学塾2010」の報告

野上大作、柴田一成、常見俊直(京都大学)、田島節子(大阪大学)、ほか女子中高生のための関西科学塾実行委員会一同

我々は今年度、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、京都ノートルダム女子大学を中心にして、女子中高生(中学3年~高校2年)を対象とした、「女子中高生のための関西科学塾2010」という取り組みを行っている。この取り組みは科学技術振興機構による平成21年度の「女子中高生の理系進路選択支援事業」の委託事業であり、これまで男女共同参画学協会連絡会とNPO法人・科学と市民社会のコミュニケーションが中心となっていた「女子中高生ジュニア科学塾」(2006年度、2007年度)、及び奈良女子大学で行われた「女子中高生のための関西科学塾」(2008年度)の流れを汲むものである。本事業では、科学を愛する市民である女子中高生が主体的に自然について学び、研究し、その結果として女子中高生が自らの進路についての身近な将来像を獲得し、自信を持って理科系進路を選択することを目指す。

具体的には、女子中高生80名(応募者多数により実際には約90名を抽選により決定した)と20名程度の保護者、教員を対象に、年3回の実習を行い、その内容をもとに発表会を行うというものである。実習は毎回において、理学、工学、医学、情報学などの多岐に亘る9~10のテーマが設定されており、受講者の希望に応じて前述の5大学に分かれて行う。こうした実習を通して、自然科学や科学技術への理解を深め、未来の理系進学者同士の友好を深めてもらう。最後の発表会は1泊2日の合宿形式で行い、将来様々な場面で必要になるプレゼンテーション技術を習得してもらう。また理系に進んだ先輩で学术界、産業界で活躍されている方の講演を聴く場を設け、進路選択後の具体的な未来像を描いてもらう。

本講演ではこの取り組みの概要や、取り組み後のアンケート結果の報告を行う。